

平成 22 年度
第 1 回応用物理学会北海道支部役員会 議事録

日時：平成 22 年 4 月 26 日（月）17:00～18:10

場所：北海道大学 エンレイソウ 第 1 会議室

出席者（順不同、敬称略）：

高橋 庸夫（H22 支部長）、橋詰 保（H22 会計監査）、中村 隆（H22 釧路幹事）、篁 耕
司（H22 旭川幹事）、戎 修二（H22 室蘭幹事）、原 真二郎（H22 庶務幹事）、松田 健
一（H22 会計幹事）、笹倉 弘理（H22 会計幹事）、笹木 敬司（H22 本部理事）、足立
智（H21 庶務幹事）、Oraf Karthaus（H21 千歳幹事） 以上 11 名

欠席者（順不同、敬称略）：

石井 良博（H22 函館幹事）、阿部 良夫（H22 北見幹事）、坂井 賢一（H22 千歳幹事）、
熊野 英和（H22 庶務幹事）、福井 孝志（H22 支部評議員）、山本 眞史（H22 支部評
議員）、馬場 直志（H21 支部評議員）、白峰 賢一（H21 会計幹事）、松本 和健（H21
釧路幹事） 以上 9 名

議事録作成者：

原 真二郎（H22 庶務幹事）

議題

1. 新旧の支部役員の引き継ぎがなされた（資料 1）

- ・新役員の自己紹介が行われた。

2. 第 46 回（2011 年）北海道支部学術講演会について（資料 2-1、2-2）

- ・会場：室蘭工業大学、日時：2011 年 1 月 7 日（金）・8 日（土）の開催、招待講演者の依頼状況、会場手配状況など報告され（室蘭幹事・会場幹事・戎先生）、「室蘭工業大学・後援」として会場賃貸料金を無償とする旨、了承された。
- ・第 47 回（2012 年？）学術講演会は、北海道大学（札幌）会場（学術交流会館）とすることです承された。平成 23 年度庶務幹事（正）・熊野先生が会場幹事の予定である。

3. 平成 22 年度事業計画及び予算報告について（資料 3-1、3-2）

事業計画：

- ・本年度リフレッシュ理科教室・北海道大学工学部会場を 2010 年 10 月 30 日（土）10:00～12:00 で開催する旨、報告された（庶務幹事・原）。またこれまで同様、理科実験の実演企画として、NPO 法人北海道科学活動ネットワーク（菅原先生）にご

協力頂けることで内諾済みである旨、報告された。

- ・「本年度初め」2010 年 1 月 12 日、リフレッシュ理科教室（旭川高専会場）が既に開催済みであり、篁先生より実施概要が報告された。来年度も応物の「リフレッシュ理科教室」として継続して旭川高専会場で実施したい旨、計画が報告され了承された。（応物の会計年度は「1 月～12 月」）

- ・昨年度まで開催頂いていた「道工大会場（道工大・木村先生）」においても、来年度再開する可能性がある旨、足立先生より報告された。3 会場になる場合、本部からの補助金は最高 100 万円となる。

予算報告：

- ・本年度予算について追加補足資料を配布し、説明がなされた（会計幹事・松田先生）。リフレッシュ理科教室に対する補助金の余剰金は、そのまま支部運営資金に組み入れてよい旨、昨年度会計幹事・白峰先生が応物本部に確認済み。

- ・応物の会計年度は 1 月から 12 月であるが、2011 年学術講演会の開催（室蘭工大開催予定）は「平成 22 年度」という呼び名で良いのか？という質問が戎先生よりなされた。「第 46 回（2011 年）」という名称に統一するのが混乱を招かず良いということによって一致した。

- ・前事務局事務員・高谷さんへの記念品贈呈について事後報告され、支部予算による購入に関して了承された（会計幹事・松田先生）。

4. 支部長会議報告について（別添資料）

- ・支部長会議に関して、別添資料に基づき報告された（支部長・高橋先生）。公益法人化に関する白木会長の考え（2010 年夏頃、申請予定）が報告された。

- ・支部長と地方出身本部理事を兼務とする予定のため、本部理事と支部長が各 1 名という体制は今年度限りの可能性が高い。

- ・余剰資産は公益法人としては問題であるが、具体的な目的積立金という形で積み立てるのであれば問題なく可能であるとのこと。

- ・MRS におけるシンポジウム開催支援（100 万円）や応物会員の新規獲得支援（80 万円）事業などを積極的に提案してほしい。

- ・本部で積極的に推進する「リフレッシュ理科教室」事業に関して、全国で開催されたリフレッシュ理科教室の関連資料が入った CD-ROM が、高橋支部長および原の元に送られてきているので、必要であれば支部会内で貸与可能である旨、連絡された。

5. 理事会報告について

- ・本部理事会に関して、支部長会議の内容に対する補足説明と共に報告された（本

部理事・笹木先生)。

- ・本年度科研費(4,000万円)は採択された旨、連絡された。
- ・MRS、CLEO等、MRSに限らず他の会議やシンポジウムでの共催やセッション開催を積極的に支援する。
- ・APEXのIFが本年度出る予定で、現状では2.0強になる見込み。企画当初の目標は4.0強程度であったので、今後も引用を積極的推進する。状況として「自己引用回数」は少ないようだが、引用回数自体が少ないとのことである。

6. その他報告について(別添資料)

- ・北見工業大学「おもしろ科学実験」の後援について事後報告(支部長・高橋先生)され、了承された。こうした企画の後援は全く問題ない、むしろ今後も積極的に後援すべきであるということで一致し、了承された。

以上